

清水港湾事務所広報紙

発行

イメージキャラクター
「ベエズ」

みなとしみず

国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所

御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所

静岡市清水区日の出町7番2号

TEL. 054-352-4146(代表)

<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

「平成20年度静岡県港湾・漁港海岸現地調査講演会」が開催されました

静岡県内には、15の港湾と49の漁港がありますが、漂砂*により、港内埋没や港に隣接する海岸の浸食などが深刻な問題となっているところがあります。

静岡県は、こうした漂砂問題への適切な対応を行うため、漂砂研究の第一人者である栗山善昭独立行政法人港湾空港技術研究所沿岸土砂管理研究チームリーダーに現地調査を委託し、対策についてのアドバイスを受けています。

栗山リーダーの現地調査は、9月29日から10月1日にかけて行われ、10月1日の午後、調査講演会が催されました。

栗山リーダーは、現地調査の際に自身で撮影された写真などを使って、漂砂が生じた原因・メカニズムの考察と、今後の対応についてのアドバイスを分かりやすく説明され、県担当者からの質問には一つひとつ丁寧に回答されました。



静岡県庁で開催された講演会

*漂砂：波、または海に発生する様々な流れによって生じる土砂の移動、もしくは移動する土砂のこと。

ファインダーの向こう

先日、航海訓練所の練習帆船「日本丸」が、清水港に寄港しました。

練習帆船「日本丸」は、1930年に進水した初代日本丸の後継船として1984年に就航しました。総トン数は2,570トン、全長は110.09メートルで、4本マストのバーク型と呼ばれる帆船です。帆の数は全部で36枚あり、面積は約2,760平方メートルにもなります。その美しい姿から「太平洋の白鳥」と呼ばれています。

今回の航海では清水にある清水海上技術短期大学校専修科の実習生97名（うち女子学生13名）が乗船しています。

この写真は、「セイルドリル」ですべての帆を張り終えた姿です。実習生が、笛の合図によって、きびきびと作業を進めている姿をみると、胸が躍ります。当日、清水港の日の出ふ頭には沢山の市民や実習生の家族らが集まり、訓練の様子を見守っていました。

また、夜にはライトアップされ、清水港の観覧車とともに港の景観に華を添えていました。

日本丸で海技を学んだ実習生が、世界の海で活躍されることを願っています。



帆船「日本丸」

Photo : A. Fujii

清水港湾事務所長 藤井 敦

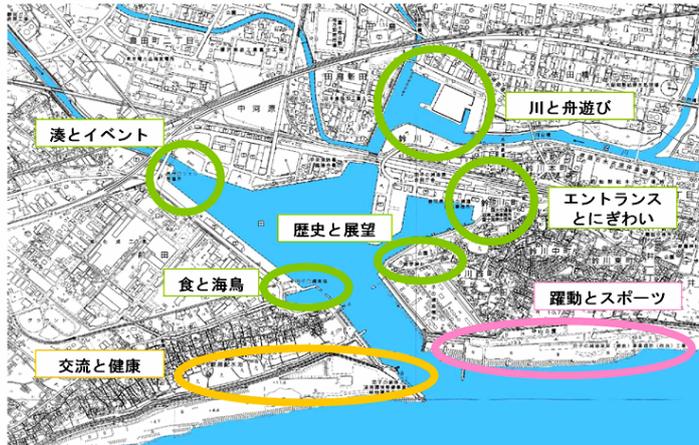
みなとへの想い 富士市長 鈴木 尚

田子の浦港中央地区では、船舶の大型化に対応した、水深12mの多目的国際ターミナルの整備及び、大規模地震発生時の緊急物資輸送用に耐震岸壁として設計された2号岸壁の整備が進められており、早期の完成が望まれています。

また、平成16年度に港を中心とした港湾周辺地域におけるみなとまちづくりの基本構想が作成され、将来像として『富士山が美しい海辺の体験交流拠点 マイタウンポート』を掲げ、港全体で田子の浦港らしいにぎわいづくり創出の取り組みを行っています。



◆地区ごとの目標



現在は、港口西側のエリアに『交流と健康』をテーマとしたシンボル緑地の整備が進められており、田子の浦港や富士山、駿河湾の眺望を楽しみながら様々な人が憩える海辺の空間として、また、イベントなどを通して多くの人が交流する観光交流拠点として、大きな期待が寄せられています。一方、対岸の港口東側エリアでも『躍動とスポーツ』をテーマとした公園の整備が検討されています。

そのほか、毎年夏になると中学生や高校生等を対象とした洋上研修事業として「富士市青少年の船」を実施しており、ドラマや映画の舞台として知られる豪華客船が田子の浦港中央埠頭から少年少女の希望を乗せて沖縄や北海道へ向けて出港しています。

富士市では、市内の観光交流資源を、まちづくりとの関りのなかで発展させる観光交流都市を目指しています。この一環として、港周辺を会場としたお祭り社会実験イベント『海交流』を開催し、田子の浦港を拠点とした観光交流の方向性を探っています。



富士市青少年の船

本ページの写真・イラスト提供：富士市



田子の浦港をテロから守れ！



警察や海上保安部、税関等の危機管理関係機関による合同訓練を通じ、国際テロ事案発生時における危機管理対応能力の向上を図ることを目的として、10月28日(火)に、田子の浦港吉原ふ頭においてテロ対策合同訓練が実施されました。

訓練は、政府水際対策チーム(内閣府)から、田子の浦港危機管理担当官(富士警察署長)に対し、「田子の浦港港湾関連施設に対するテロ計画情報を入手した。」との通報を受けて、情報伝達及び緊急参集し、警戒態勢を執っていたところ、不審車両および不審船が吉原ふ頭に侵入してきたという想定で行われました。

岸壁に侵入してきた陸上テロリストを静岡県警本部機動隊及び富士警察署が制圧検挙し、また、不審船に乗り込んだ船上テロリスト及び不審船を、静岡県警水上警察の警備艇と清水税関支署の監視艇が包囲するなか、清水海上保安部が制圧検挙しました。さらには、テロリストらが、岸壁に毒物と思われる不審物を仕掛けたため、機動隊NBC対策班(機動隊・警察・消防)が出動し、不審物の回収及び岸壁の除染を行いました。

*NBC兵器…核(Nuclear ニュークリア)兵器、生物(Biological バイオロジカル)兵器、化学(Chemical ケミカル)兵器の略

当事務所においても、引き続き、危機管理対応能力の向上、テロ発生時に備えた各関係機関との連携強化に努めて参りたいと思います。



訓練には、9機関約120人が参加しました。



不審物の回収に向う機動隊NBC対策班



今回は、警察犬も出動しました。

堀川清司東大名誉教授らによる津波調査実施

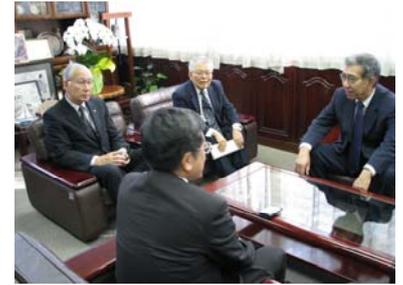
10月16日(木)から17日(金)にかけて堀川清司東大名誉教授及び、独立行政法人港湾空港技術研究所の金澤理事長らによる津波調査が静岡市から下田市にかけて実施されました。



静岡県地震防災センターで説明を受ける参加者

初日は、静岡市にある静岡県地震防災センターにおいて、望月専門監らから津波対策の現状などを説明していただきました。清水港に移り清水港管理局で前田局長らから津波防災ステーションの説明を受け、日の出ふ頭の陸閘の遠隔操作を視察しました。その後、予想される東海地震により、比較的高い津波が想定されている、沼津港から狩野川放水路までの区間における津波防災対策を県沼津土木事務所斎藤課長、沼津市廣瀬消防本部防災監らから現地で説明を受けました。

二日目は、石井直樹下田市長を訪ね、下田市の防災対策等について意見を交換しました。石井市長からは、防波堤整備の進捗の遅れが心配であることや、過去の被災経験から市民は津波に対する不安感があること、高齢者の避難対策が課題であることなどのご意見をいただきました。



石井下田市長と意見交換する参加者

その後、市史編纂室の佐々木忠夫先生を訪ね、当時の歴史的な背景や津波被害の状況等について詳しく解説をいただきました。佐々木先生からは、宝永津波(1707年)や安政津波(1854年)など下田市は、過去に何度も大きな被害を受けてきたこと、安政津波の際には日露和親条約締結のため多くの幕府役人がきており、日記などの形で多くの記録が残っていることをお聞きしました。

引き続き、佐々木先生を始め市教育委員会前田課長らのご案内で、市内の津波痕跡の残る了仙寺や、つなみ塚のある本覚寺、稲田寺(とうでんじ)、参



講演する佐々木先生

道の階段4段目まで浸水したと伝えられる長楽寺等を視察しました。安政東海地震は150年以上前のことで、津波痕跡も現在ではほとんど残っていないが、了仙寺では本堂の柱上部に津波で流されてきた船による衝突痕があり、当時の被害状況の一端を垣間見るとともに、津波の恐ろしさを痛感しました。

また下田公園の高台から下田市市民課黒崎係長より下田市における津波防災の取り組みについて説明を受けました。



了仙寺の津波痕跡(赤線内)

今回の調査の後、独立行政法人港湾空港技術研究所より、「静岡県沿岸は、過去に繰り返し津波被害を受けており、今後も東海地震などにより地震や津波被害が想定されている地域です。このため、水門、陸閘及び防波堤等のハード整備のみならずハザードマップの住民への提示、避難場所の配置など人命保護に向けた取り組みは『さすが静岡』と思わせるものがあつた。高所への避難は非常に重要な対策であるが高齢者などの要支援者をいかに逃がすかが課題で、地域コミュニティの共助に期待する部分も多いが地震発生後数分後に来襲する津波の被害についての詳細な検討と避難場所の配置は今後考えるべき点はまだあると感じた。」と総括をいただきました。

清水港湾事務所では下田沖を航行する船舶の避難水域確保と下田市街地への津波被害を低減される防波堤事業を実施中です。災害時の緊急支援の窓口となる港の施設の整備や、港や海岸の防災対策にますます力を入れる必要があると感じました。

最後に、資料提供や現地案内などにご協力をいただいた方々に厚く御礼申し上げます。



長楽寺・津波犠牲者供養碑

現場から 清水港新興津防波堤築造工事 を紹介します。

現在、清水港湾事務所では、清水港の新興津防波堤の延伸工事を進めています。

去る10月22日より、ケーソン(コンクリートの箱)4函を防波堤の延伸部に設置しました。

このケーソンは、清水港内の三保ケーソンヤードで製作したもので、1函が高さ11m、幅14.5m、長さ15m、重さ1,525トもあります。

今後は、消波ブロックの据え付け等を行い、来年、平成21年2月頃には、防波堤が、60m延びる予定です。



今回沈めたケーソン4函です。この写真は、上部コンクリート打設中に撮影したもので、台船には、コンクリートミキサー車が8台載っていました。

行ってきました

航路標識測定船「つしま」一般公開

第140回灯台記念日(11月1日)に合わせ、清水港日の出ふ頭において、海上保安庁の航路標識測定船「つしま」の一般公開が行われました。

「つしま」は、灯台の光度の測定や、視認性・利便性の調査、GPSを利用した電波標識の測量、ロランCなどの船位測定システムの有効範囲、精度の確認などの重要な業務に従事しており、年間約150日かけて日本の周辺海域を航行しながら船舶の航行安全のために調査測量に努めています。

一般公開では、操舵室や「つしま」の心臓部とも言える「測定室」を見せてもらいました。この測定室には、いろいろな測定機器が設置されており、全国の航路標識を見守っています。

「つしま」は建造後30年が過ぎており、乗組員さんからは「おばあちゃん」と呼ばれていましたが、世界で1隻しかない船なので、これからも海の安全のために、元気でがんばって欲しいですね。



歓迎式典では、望月義夫衆議院議員 国土交通委員長の挨拶がありました。



「つしま」の特徴は、たくさんのアンテナが装備されていることです。

お知らせ

清水港新興津ふ頭に過去最大船型のコンテナ船が着岸しました

11月3日に、MAERSK LINEの欧州航路のコンテナ船「MAERSK SARNIA」が清水港新興津ふ頭に着岸しました。

このコンテナ船は全長335mあり、これまでに新興津ふ頭に接岸したコンテナ船の中では、過去最大となります。

今後は、さらに大きなコンテナ船が、新興津ふ頭に着岸する予定です。



興津から撮影



三保半島から撮影

「MAERSK SARNIA」の諸元

長さ335m 幅=42.8m 載荷重量トン数=約97,000ト

海とみなとの相談窓口

全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと

0120-497-370

受付時間:9時~12時、13時~17時(土・日、祝祭日は除く)
☆携帯電話からもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

■ 本誌に関するお問い合わせ先 ■

清水港湾事務所 企画調整課

太田・屋敷

Tel. 054-352-4148

e-mail

shimizukouwan@pa.cbr.mlit.go.jp